報告 580

学校図書館を活用した各教科等における学習モデルの提示（1 年次）

－中学校における学校図書館機能を活かした学習の創造－

中町　夕子（京都市総合教育センター研究課　研究員）

情報通信技術の発達めざましい現代，子どもたちは疑問や課題に対する答えを，インターネット検索により安易に求める傾向がある。しかし，情報の溢れるこの時代だからこそ，子どもたちには多面的・多角的に事象をとらえて検討したり，複数の観点から見た情報を組み合わせて新しい考えを創造したりする力が必要である。これらの力を学校教育の中で付けるため，学校図書館の「学習・情報センター」としての機能，特に日本十進分類法に基づく「図書分類」を，各教科等の授業で活用することが有効ではないかと考え，研究を進めた。

第１章　これからの時代に求められる資質・能力と学校図書館

第１節　今求められる資質・能力

平成 25 年，国立教育政策研究所が出した「教育課程の編成に関する基礎的研究報告書５」には「社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力」の育成が謳われている。「汎用的な資質・能力」とは，ある問いに対する答えを多く身に付けることではなく，存在する知識や情報を収集し，統合し，最適解を導き出したり新しい価値を生み出したりする思考の過程を構築できる力であると考える。このような力を付けるための活動を，各教科等の授業に取り入れることが必要である。

第２節　学校図書館の魅力

筆者自身の授業経験から，学校図書館とインターネット，それぞれを活用した学びの特徴を比較した。すると，学校図書館での学びには，インターネットにない利点があった。中でも特に注目したのは，情報の属する分野や系統性を俯瞰的に見ることができる，学校図書館の「図書分類」である。現在，学校図書館にもインターネットに接続できる環境が整えられてきている。インターネット上の情報と図書資料の両方を使いこなす基礎として，学校図書館での「図書分類」を活かした学習体験が必要であると考える。

第３節　学校図書館を活用した授業の現状

平成 25 年 6 月実施の本市中学校教員対象アンケート調査で筆者が注目したのは，学校図書館を活用しない理由として「活用する意義や方法が教職員に共通理解されていない」という回答である。そこで，学校図書館を活用する学習モデルを提示し，学習・情報センターとして活用する意義や方法について研究を進めた。

第２章　教科授業で活用する学校図書館

第１節　学校図書館を活用する意義

学校図書館には，子どもたちに「物事を多様な観点から論理的に考察する力」「自ら課題を発見し解決する力」「他者と協働するためのコミュニケーション能力」などを育成する機能が備わっていると考える。生まれた時から日常生活の中にインターネット環境があり，常に多くの情報に囲まれている現代の子どもたちだからこそ，学校教育の教科授業等において，学校図書館を意図的に活用する必要がある。

第２節　学校図書館を活用した授業

「図書分類」を，知識・情報を整理する枠組みとして活用し，学校図書館でその知識・情報を深く追究したり，関連付けたりする。そのことにより，子どもたちの頭の中で学習内容が体系的に理解され，それらを活用して新しい価値を創造する学習につながりやすくなる。また，自主的に学ぶ手掛かりになる。この考えに基づき，いくつかの段階に分け，学校図書館を活用した学習パターンを考えた。

また，情報や思考を整理するツールとして図 1 の「分類ワークシート」を作成した。

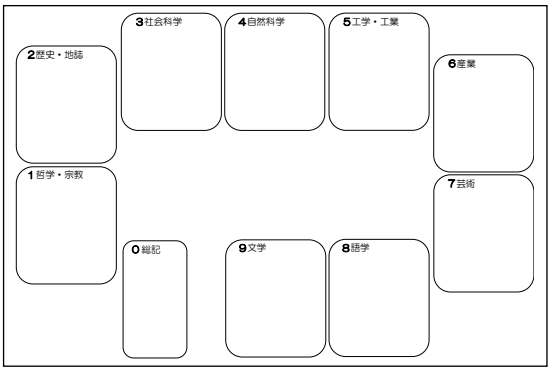

図１「分類ワークシート」

第３章　授業実践から

中学校社会科（地理的分野）において学校図書館を活用した授業を行った。第１～３節では第１学年，第４節では第２学年の授業について述べる。

第１節　多角的な観点から課題をとらえるための授業

この授業では，図１の「分類ワークシート」を，単元全体の学習内容をとらえるために用いた。「分類ワークシート」に教科書のキーワードを書き出し，それをもとに他地域との比較を行い，学習内容を深めた。次に学校図書館で多角的な観点から情報を集めた。更に集めた情報を全体で共有し，地域の課題を解決する方法について考えた。「分類ワークシート」の記述から，子どもたちが様々な観点から学習内容をとらえていることがわかった。

第２節　複数の観点から見た情報を関連付けて課題を解決するための授業

この授業では，「分類ワークシート」に加え，図２の「情報ワークシート」を，学校図書館で得た複数の情報を関連付けて課題を解決するために用いた。「情報ワークシート」の記述から，子どもたちが複数の観点からの情報を統合して自分の考えをまとめたり，興味関心を新たな分野へ広げたりしていることがわかった。

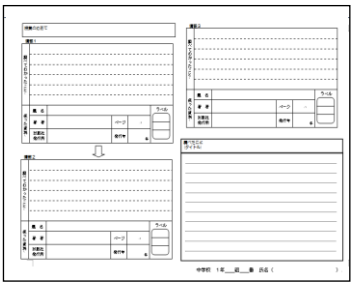

図２「情報ワークシート」

第３節　自ら課題を設定し追究するための授業

この授業では，「分類ワークシート」を，個々の追究課題を子どもが自ら設定するために用いた。課題設定する子どもたちの様子から，「分類ワークシート」を活用し「図書分類」の観点で情報を書き出すことで，特徴的な事柄や新たな疑問などに注目し，自らの課題として追究している場面が見られた。

第４節　学校図書館で追究した内容を学級全体で共有し学習内容を深める授業

この授業では，　第２節で述べた学習に加えて，学校図書館で得た情報を共有する際，グループを組み替えることで多角的な観点から学習内容を広げ，深める工夫をした。子どもたちが記述した単元のまとめには，様々な情報を踏まえて表現した内容が見られた。

第５節　授業充実のための連携について

本授業実践では，学校図書館運営支援員（図書支援員）との連携により「子どもが多角的な観点から課題をとらえること」「追究課題を絞り込むこと」「個に合わせた学習支援」などが可能となった。加えて，図書支援員及び京都市図書館との連携により「専門的な立場から図書資料の選定，準備を行うこと」ができた。

指導者，図書支援員，公共図書館担当者に授業のねらいが共有されることで，子どもたちにより効果的な学習環境を提供することができる。

第４章　研究の成果と課題

第１節　生徒対象アンケート調査の結果から

調査結果から「分類ワークシート」を使った学習について，１年生 85%，２年生 60%以上が肯定的に回答した。また学校図書館を利用した学習について（１年生のみ調査）80%以上が肯定的に回答した。

第２節　個別の課題を追究したレポートから

第３章第３節の授業で子どもたちが作成したレポートには，設定した課題に多様性が生まれ，興味関心のある課題を追究したものが多く見られた。従って，「図書分類」の観点で対象となる課題を多面的・多角的に掴み，その中で興味関心のある分野，内容にテーマを絞り込んでいくことは，子どもの興味関心を広げ，一つの事象を深く追究する学び方を提供できると考える。

第３節　学校図書館を活用した学習を通して見えてきたこと

学校図書館，特に「図書分類」を活用した学習は，ものごとに多面性があることを知り，多角的な観点からとらえ，自らの疑問や課題を深く追究する学習に有効である。一方で，従来の評価方法が子どもたちの学習の幅を狭める一因となっていることなど，指導者側が考えるべき課題も見えた。

また，学校図書館を活用した学習では，個に合わせた学習支援が行いやすい。一方で，子どもが学習を進める方向性を見定め，自らの力で学べるようアドバイスする力量が指導者側に求められる。

更に，図書支援員や公共図書館との連携により，授業に新たな可能性が生まれることもわかった。

学校図書館を活用した学習は，子どもたちの資質・能力を育成し，生涯にわたって学ぶ力を付ける有効な手段である。学校図書館を活用した学習の在り方について，指導者の一人として，今後更に考えていかなければならない。